


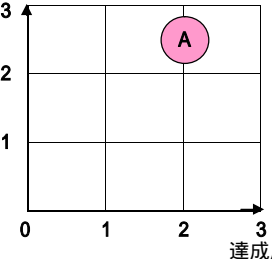
年次報告書

評価表

施策	性と生殖に関する健康と権利(リプロダクティブ・ヘルス・ライツ)の尊重	A	生きる	事業番号	3-1	施策	性と生殖に関する健康と権利(リプロダクティブ・ヘルス・ライツ)の尊重	A	生きる	事業番号	3	
	健全な成長のための性に関する教育と相談機能の充実						健全な成長のための性に関する教育と相談機能の充実					
事業名	思春期保健指導(性教育)の充実・促進				課名	学校教育課						
事業名	思春期保健指導(性教育)の充実・促進				課名	学校教育課・健康づくり課						
事業内容	目的 子どもたちの発達段階に即した系統的な性教育の取り組みを進めることを通して、心身ともに大きく変化する思春期を成長へのステップと捉え、男女が互いに理解し合い尊重し合う心や、自らの健康を適切に管理し改善していく資質や能力を育てる。 内容 ・心身の機能の発達と心の健康について理解する。 ・誤った情報に惑わされることなく、心身の変化に対応した適切な行動がとれるようにする。 小学生 思春期の体や心の変化について理解すること、命を大切にすること、男女が互いに尊重し合う心育てるための取り組みを、各学校が児童生徒の実態を踏まえて実施。 中学生 身体的な成熟に伴う性的な発達に対応し、異性の尊重や性情報への対処など性に関する適切な態度や行動の選択が必要となることを理解できるように指導した学習を基盤として、命を大切にすること、男女が互いに尊重し合う心育てるための取り組みを、各学校が児童生徒の実態を踏まえて実施。 【指導の時期】 ・小学校では5年生の宿泊訓練、6年生の修学旅行等の事前指導として男女一斉に保健指導を行ったり、内容によっては男女別に指導したりして学習をしている。成長の度合いにより個人的な指導(月経等)も行っている。 ・一斉学習の具体例として「いのちの誕生」という単元で妊娠や出産までの学習をしている。					巷には誤った情報が氾濫する中で、児童生徒への教育・啓発とその環境整備は大変重要である。地道に熱心に活動してほしいが、事業名は検討すべきである。 とても重要な事業であり、継続だけでなく更なる拡充を望みたい。小中学生ともに兄妹が少なくなっている現状を踏まえ、妊婦さんや乳幼児に触れる機会を設ける事は出来ないか？ 性に関する情報が氾濫する状況の中で、正しい知識を身につけ、正しい判断力を養い、男女がお互いに尊重し合える心を醸成していくことは非常に重要である。 地域性等もあり、学校間で性教育の内容や進捗度の違いはあって当然だが、一貫性のある、小学校から中学校へと継続したものを展開していただきたい。 実際に赤ちゃんの授乳シーンなどを学生たちに見てもらおうなどの「いのちの教育」的な工夫は、学生たちも受け入れやすいし、「性教育」をより開かれたものにすると思われる。 日本はまだ家庭での性教育がスタンダードではないため、学校教育に頼っている。正しい理解を深めるためには、内容の充実が求められる。 早い時期から、親子で命の大切さや性教育を学ぶことにより、男女がお互いの人権を尊重でき、男女共同参画社会に向けた意識を持つことができる。 性に対して不安定な状況にある思春期の性教育はとても重要である。今までの具体的な取り組みに比べると23年度はやや消極的。受け身ではなく積極的に。 参観日を利用して両親にも啓発するのはよい取組だと思う。 男女がともに尊重し合う視点を学ぶ入り口であり、系統だった学習を行うべき。また授業中はもちろん日常生活でも互いを尊重する習慣の確立を図らねばならない。 本県は思春期における性の課題が大きいと、とくに中・高校生時代の意図的・計画的な性教育が必要であるが、現状はきわめて不十分である。 学科として教室に於いて授業をする場合には講師に産婦人科系統の医師を充てるべきだと思う。一般向けの性教育について講演会の様なものはためである。						
	経過	22年度までの経過 <平成22年度の実績> 小学生 3～6年生 保健領域の授業 24単位実施。 体験型学習・・・助産師を講師とする「いのちの学習」を実施。 <平成22年度実施校 11校> 中学生 保健分野の授業を48単位実施。 産婦人科医師を講師とする講演会を実施。 知的障害児 中学部「心と体の教育」として年間を通して学習。具体的には「いのちが生まれる」「からだのしくみ」「成人病にならないために」等の単元を実施。										
視点	男女共同参画の視点・着眼点 学校で男子・女子それぞれ体のつくりやはたらきの違いを教え、お互いを尊重しあう心育てる。											
目標	23年度 男女共同参画推進の目標 体験型学習の実施を促し、命の大切さを具体的に学習できるように指導・支援する。 家庭への啓発と連携を促す。 (子どもたちがいのちの尊さについて保護者と話し合う機会を持てるような宿題を作る ・「保健だより」や「学年だより」に学校で実施した保健学習について記載し、「家庭でも話あってみてください」というような文言を載せる。)											
23年度実績	23年度の実績(実施回数や参加人数等を具体的に) 小学生 3～6年生 保健領域の授業 24単位実施。 ・体験型学習・・・助産師を講師とする「いのちの学習」を実施。 <平成23年度実施校 9校> 実施校減少の理由 ・・・・3.11東北震災発生による補助金額削減のため 中学生 保健分野の授業を48単位実施。 ・産婦人科医師を講師とする講演会を実施。											
報告	男女共同参画の視点で実施できたことは? (実施できなかった場合はその理由) ・性教育については、全小・中学校が計画的に実施できた。 ・妊婦さんや助産師さんの協力を得て、命の大切さを具体的に学ぶことができた。(9校) ・自分の誕生の様子について、家庭でも話し合い、意識を高めることができた。	目標からみる自己(課)評価 (男女共同参画の視点での計画・実施度) 0 1 3 	備考 0・・・改善が必要である。 1・・・ある程度の成果は認められるが、改善の必要がある。 2・・・概ね十分だが改善の余地がある。 3・・・十分である。									
備考	[学校教育課] ・各校においては、毎年学年の発達段階に応じて系統的に性教育を実施している。 ・具体的には、妊婦さんや助産師さんを講師として話を伺ったり、妊婦体験や新生児人形を使った体験学習を行っている。 ・保護者への啓発としては、学校通信や学年通信等で学習の様子を知らせている。また自分の生まれた時の様子等について家族に聞き取ることで、家庭内で学習内容を共有することができ、学校と家庭の学びの連携ができています。 ・平成23年度は、これまでの保健学習や理科学習と同じように保健指導(性教育)の充実・促進につとめて。来年度も系統的に学習を行う予定である。 ・事業名については、「いのち」に関わることとして今後検討したい。 [健康づくり課] サポートの依頼があれば、学校のニーズに応じて授業展開をともに考え、実施していきたい。											
総合評価 円の大きさ・・・評価(委員会) 必要度(市民) 大 大 達成度(担当課)												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>必要度(市民)</th> <th>達成度(担当課)</th> <th>評価(委員会)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2.6</td> <td>2</td> <td>2.21</td> </tr> </tbody> </table>							必要度(市民)	達成度(担当課)	評価(委員会)	2.6	2	2.21
必要度(市民)	達成度(担当課)	評価(委員会)										
2.6	2	2.21										

年次報告書

評価表

施策	性と生殖に関する健康と権利(リプロダクティブ・ヘルス・ライツ)の尊重	A	生きる	事業番号	3-2	施策	性と生殖に関する健康と権利(リプロダクティブ・ヘルス・ライツ)の尊重	A	生きる	事業番号	3					
	健全な成長のための性に関する教育と相談機能の充実						健全な成長のための性に関する教育と相談機能の充実									
事業名	思春期保健指導(性教育)の充実・促進				課名	健康づくり課		事業名	思春期保健指導(性教育)の充実・促進							
事業内容	目的 性教育に取り組んでいけるように、情報提供(赤ちゃん沐浴・抱っこのかた、おむつ交換等)や、物品の貸出し等により、性教育に取り組みやすい環境を作る。 内容 【思春期教室】 学校で性教育を実施できるように、対象者や授業の内容に合ったサポート、資料教材の提供、物品の貸出しを行う。 講師：学校教員・養護教諭 開催校：学校からの依頼					巷には誤った情報が氾濫する中で、児童生徒への教育・啓発とその環境整備は大変重要である。地道に熱心に活動してほしいが、事業名は検討すべきである。 とても重要な事業であり、継続だけでなく更なる拡充を望みたい。小中学生ともに兄妹が少なくなっている現状を踏まえ、妊婦さんや乳幼児に触れる機会を設ける事は出来ないか？ 性に関する情報が氾濫する状況の中で、正しい知識を身につけ、正しい判断力を養い、男女がお互いに尊重し合える心を醸成していくことは非常に重要である。 地域性等もあり、学校間で性教育の内容や進捗度の違いはあって当然だが、一貫性のある、小学校から中学校へと継続したものを展開していただきたい。 実際に赤ちゃんの授乳シーンなどを学生たちに見てもらおうなどの「いのちの教育」的な工夫は、学生たちも受け入れやすいし、「性教育」をより開かれたものにすると思われる。 日本はまだまだ家庭での性教育がスタンダードではないため、学校教育に頼っている。正しい理解を深めるためには、内容の充実が求められる。 早い時期から、親子で命の大切さや性教育を学ぶことにより、男女がお互いの人権を尊重でき、男女共同参画社会に向けた意識を持つことができる。 性に対して不安定な状況にある思春期の性教育はとても重要である。今までの具体的な取り組みに比べると23年度はやや消極的。受け身ではなくポジティブに。 参観日を利用して両親にも啓発するのはよい取組だと思う。 男女がともに尊重し合う視点を学ぶ入り口であり、系統だった学習を行うべき。また授業中はもちろん日常生活でも互いを尊重する習慣の確立を図らねばならない。 本県は思春期における性の課題が大きいと、とくに中・高校生時代の意図的・計画的な性教育が必要であるが、現状はきわめて不十分である。 学科として教室に於いて授業をする場合には講師に産婦人科系統の医師を充てるべきだと思う。一般向けの性教育について講演会の様なものはだめである。										
	経過 22年度までの経過 <平成22年度の実績> 思春期教室(サポート授業)：小学校7校、中学校1校合わせて9回実施、児童・生徒約653人 知的障害者のグループホームでの性教育実施：1ヵ所計4回(延べ82人参加) (実施回数)4回(3回コースで1回のみ2回実施)、参加者は10～50歳代男女 (内容)男女一緒に保健師が行なうが、内容によっては男女別にして男性には施設職員が実施。実施にあたっては理解しやすい表現や言葉にしたり、実技を取り入れたり、個別対応も行なう、などの配慮をしている。 物品の貸出回数：27回(小学校15校、中学校2校、高校1校、関係機関5) 貸出物品：沐浴人形、妊娠シミュレーター、パネル、ドッラー等															
視点	男女共同参画の視点・着眼点 ・性教育は「いのちの教育」であり、生命の尊重や自己及び他者の個性を尊重し、相手を思いやり望ましい人間関係を構築するなど、適切な行動を取れることを目的として、男女共に生命の誕生やいのちについて伝えていく。 ・参観日に開催するなど両親へも児童とともに啓発していく。 ・男性の育児参加等の重要性を講義内容に入れている。 ・赤ちゃんの抱き方やおむつ交換等の実技も、男女ともに実施している。					推進委員の意見・提言 日本はまだまだ家庭での性教育がスタンダードではないため、学校教育に頼っている。正しい理解を深めるためには、内容の充実が求められる。 早い時期から、親子で命の大切さや性教育を学ぶことにより、男女がお互いの人権を尊重でき、男女共同参画社会に向けた意識を持つことができる。 性に対して不安定な状況にある思春期の性教育はとても重要である。今までの具体的な取り組みに比べると23年度はやや消極的。受け身ではなくポジティブに。 参観日を利用して両親にも啓発するのはよい取組だと思う。 男女がともに尊重し合う視点を学ぶ入り口であり、系統だった学習を行うべき。また授業中はもちろん日常生活でも互いを尊重する習慣の確立を図らねばならない。 本県は思春期における性の課題が大きいと、とくに中・高校生時代の意図的・計画的な性教育が必要であるが、現状はきわめて不十分である。 学科として教室に於いて授業をする場合には講師に産婦人科系統の医師を充てるべきだと思う。一般向けの性教育について講演会の様なものはだめである。										
	目標 23年度 男女共同参画推進の目標 命を大切にす心や、男女がそれぞれの体の特徴や違いを理解し、尊重し合う心を育てるための取り組みを行う。児童・生徒に、性に関する知識や「性感染症や望まない妊娠」の予防方法の大切さを伝えていく。															
23年度実績	23年度の実績(実施回数や参加人数等を具体的に) <平成23年度の実績> 平成23年12月末現在 ・思春期教室(サポート授業)：小学校4校 ・物品の貸出回数：17回 (幼稚園1 小学校10 中学校3 高校2 養護学校1) ・貸出物品：妊娠シミュレーター、沐浴人形、ドッラー、パネル等					回答欄 【学校教育課】 ・各校においては、毎年学年の発達段階に応じて系統的に性教育を実施している。 ・具体的には、妊婦さんや助産師さんを講師として話を伺ったり、妊婦体験や新生児人形を使った体験学習を行っている。 ・保護者への啓発としては、学校通信や学年通信等で学習の様子を知らせている。また自分の生まれた時の様子等について家族に聞き取ることで、家庭内で学習内容を共有することができ、学校と家庭の学びの連携ができています。 ・23年度は、これまでの保健学習や理科学習と同じように保健指導(性教育)の充実・促進につとめて。来年度も系統的に学習を行う予定である。 ・事業名については、「いのち」に関わるものとして今後検討したい。 【健康づくり課】 サポートの依頼があれば、学校のニーズに応じて授業展開をともに考え、実施していきたい。										
	男女共同参画の視点で実施できたことは？ (実施できなかった場合はその理由) ・年度当初における「市立小中学校養護教諭研修会」にて、教室・物品貸し出しについての説明を実施した。 ・平成23年12月末現在、サポート授業への依頼は小学校4校。今後も依頼があれば協力していく。 問題点・反省点・これからの課題 学校との連携強化 健康づくり課としては、学校で性教育が実施できるようサポートする体制で臨んでいるが、各学校における取り組みに違いがあり支援にバラツキがある。この点について、各学校と話し合い、計画的に進めていけることができるようにしていきたい。											目標からみる自己(課)評価 (男女共同参画の視点での計画・実施度)  0…改善が必要である。 1…ある程度の成果は認められるが、改善の必要がある。 2…概ね十分だが改善の余地がある。 3…十分である。				
備考						<推進委員の意見・提言> ・性に関する教育の程度、内容は、各校においてまだまだ格差が大きいのが現状です。系統だった継続的な教育を期待します。近年発達障害児が増加しているようですが、そのような子どもたちへの性に関する教育は、具体的にどのような形でなされているのでしょうか。 ・意見回答欄には、抽象的な表現ではなく、具体的な対応等を挙げていただきたいものです。見通しが立たないことも多分にあることと思います。それも、その案件に関してはこのような状況で見通しが立たないなど、具体的に表現していただきたい。年度途中の実績や報告では、担当課の方も難儀されていることと思いますが、簡潔で尚かつ内容が分かる記述をお願いしたいものです。										
						総合評価 円の大きさ … 評価(委員会) 必要度(市民) 大 達成度(担当課) 大  <table border="1"> <thead> <tr> <th>必要度(市民)</th> <th>達成度(担当課)</th> <th>評価(委員会)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2.6</td> <td>2</td> <td>2.21</td> </tr> </tbody> </table>						必要度(市民)	達成度(担当課)	評価(委員会)	2.6	2
必要度(市民)	達成度(担当課)	評価(委員会)														
2.6	2	2.21														

年次報告表

評価表

施策	性と生殖に関する健康と権利(リプロダクティブ・ヘルス・ライツ)の尊重 健全な成長のための性に関する教育と相談機能の充実				A	生きる	事業番号	4-1	施策	性と生殖に関する健康と権利(リプロダクティブ・ヘルス・ライツ)の尊重 健全な成長のための性に関する教育と相談機能の充実				A	生きる	事業番号	4-1					
	事業名	夜間巡回指導活動の充実								課名	少年補導センタ-							事業名	夜間巡回指導活動の充実			課名
目的	<p>補導活動では、不良行為少年や課題を持った少年の早期発見・早期補導に努め、非行初期段階での立ち直りを支援することで健全育成につなげている。また、街頭における少年たちの実態把握や市民への啓発に努め、少年を取り巻く社会環境をより良くする目的を持って活動している。不良行為少年の早期発見・早期補導、街頭における少年の実態把握、少年を取り巻く社会環境の浄化を目的とする。</p>																					
事業内容	<p>・補導センター常駐補導委員による夜間補導。 ・中学校、高等学校の補導委員、関係機関、関係団体の職員との合同夜間補導。 ・地区補導委員と補導センター職員との合同夜間補導。 ・校区青少年育成協議会によるたまり場の夜間巡回指導。 ・よさこい祭りの前に市幹部、関係団体による夜間街頭補導。 女子は、性の問題において被害者になるおそれがあり、特に夜間補導では重点的な声掛けに努める。 補導時には、少年補導センターの場所や電話番号、相談について記載したイエローカード(黄色の地に印刷)を渡し、その後の相談につなげている。 数回出会った少年の多くは、少年補導センター職員を見つけると声をかけてきて、近況報告をするようになっており、一定の人間関係を築くことができています。</p>								<p>継続的な活動で、大切であろう。しかし、補導がどのように活かされどんな成果をもたらしたのか、評価をした上で今後の活動の仕方を考える時期ではないでしょうか。 非行の早期発見という面での効果は大きいと思われます。その反面、街頭に出てこない子ども達への対策が遅れているように感じます。最近ではネット非行という言葉も耳にする機会が多くなっています。表に出てこない非行への対策との連携が今後の課題でしょうか。 家庭や地域において残念ながら十分指導ができていない現状があり、専門の補導委員による夜間巡回指導の強化は必要である。 年度目標は、「女子は重点的な声掛けに努める、だけでなく、青少年健全育成・男女共同参画の視点から、もっと深く具体的に取組んでいきたい。 多くの大人が、少年少女の健全育成のために深夜・早朝に頑張ってくれている。不良行為の早期発見によって、多くの少年少女が救われていると思う。今後も期待する事業である。 指導実施回数は毎年頻繁で、よく実施していると思う。夜間指導で補導されるのは、未成年のごく一部であると思うが、こうした地道な努力は今後も必要である。 少年や少女の非行防止には、取り巻く社会環境を改善していくことが急務である。男女共同参画の視点で、大人たちへの啓発を行ってほしい。 インターネットカフェに未成年の深夜入店を禁止する条例が自治体でも多くなっている。屋外だけでなく屋内の巡回も必要ではないか。 夜間、徘徊する少年たちをどのように導いていくかが重要であり、工夫を重ねられているところだろうと思う。関係団体との連携も引き続き強化されたい。 繁華街や年中行事での巡回指導と日常的な夜間補導など重要な任務であると思う。幅広い市民との連携を模索し、地域で児童生徒を見守る具体的な取り組みが必要と思われる。 継続的にかかわる機会を多く持ち、学習の場に返したり、就職の斡旋につないだりする見通しのある補導を目指してもらいたい。 不良行為の実態を把握するのはなかなか難しいと思う。盛り場、遊場での喫煙・飲酒・大麻吸引等については要注意で、暴力団の予備軍にならぬ様に監視が大事。</p>													
経過	<p>22年度までの経過 <22年度の実績> 常駐夜間補導 実施回数51回, 補導人数63人 合同夜間補導 実施回数12回, 補導人数14人 早朝列車補導 実施回数10回, 補導人数0人 青少年対策推進本部・青少年育成団体合同特別夜間補導 1回, 補導人数6人 地区補導員合同補導 実施回数6回, 補導人数6人 地区補導員深夜一斉補導 実施回数1回, 補導人数6人 酒場補導 実施回数1回, 補導人数0人 夜間・早朝補導 実施回数82回, 補導人数95人(男60人, 女35人) 平日は、午前午後それぞれ徒歩班と車両班に別れて巡回。土曜日の午前中は車両班が巡回。</p>								<p>推進委員の意見・提言</p>													
視点	<p>男女共同参画の視点・着眼点 ・不良行為少年の早期発見・早期補導、夜間の街頭における少年の実態把握し、健全育成を図っており、性被害を防止するという観点から、特に未成年の女性には積極的に声をかけている。補導から相談、自立支援教室への通所につながった事例あり。 ・携帯電話の普及、少年の動線や街の変化に伴い、少年の行動範囲やパターンに変化が見られ、少年との関わりや寄せられる情報に基き、早期補導・健全育成に努める。</p>																					
目標	<p>23年度 男女共同参画推進の目標 女子は、性の問題において被害者になるおそれがあり、特に夜間補導では重点的な声掛けに努める。</p>																					
23年度実績	<p>23年度の実績(実施回数や参加人数等を具体的に) <23年度の実績> 平成23年12月末日現在 常駐夜間補導 実施回数44回, 補導人数61人 合同夜間補導 実施回数 8回, 補導人数 3人 早朝列車補導 実施回数 8回, 補導人数 0人 青少年対策推進本部・青少年育成団体合同特別夜間補導 7月27日実施, 補導人数 3人 地区補導員合同補導 実施回数 7回, 補導人数 7人 地区補導員深夜一斉補導 実施回数 8月19日実施, 補導人数 0人 酒場補導 実施回数 1回, 補導人数 0人 夜間・早朝補導 実施回数 52回, 補導人数 61人 平日は、午前午後それぞれ徒歩班と車両班に別れて巡回。土曜日の午前中は車両班が巡回。</p>								<p>回答欄 現在、委員さんの意見等参考にしつつ、業務内容の見直しや検討を行っています。「早期発見」「早期補導」とともに「非行防止」、「健全育成」の取組みも強化していく予定です。</p>													
報告	<p>男女共同参画の視点で実施できたことは? (実施できなかった場合はその理由) ・女子に対し、夜間補導では重点的な声掛けに努めることができた。 ・夜間の街頭における少年の実態を把握し健全育成を図っているが、カラオケやネットカフェ等での少年の実態を、十分につかめなかった。</p>				<p>目標からみる自己(課)評価 (男女共同参画の視点での計画・実施度)</p> <p>0 1 3</p> <p>0・・・改善が必要である。 1・・・ある程度の成果は認められるが、改善の必要がある。 2・・・概ね十分だが改善の余地がある。 3・・・十分である。</p>				<p>備考</p>													
備考									<p>総合評価 必要度(市民) 円の大きさ … 評価(委員会) 大 3 2 1 0 1 2 3 大 達成度(担当課)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>必要度(市民)</th> <th>達成度(担当課)</th> <th>評価(委員会)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2.4</td> <td>2</td> <td>2.5</td> </tr> </tbody> </table>								必要度(市民)	達成度(担当課)	評価(委員会)	2.4	2	2.5
必要度(市民)	達成度(担当課)	評価(委員会)																				
2.4	2	2.5																				

年次報告表

評価表

施策	人権尊重を阻害する暴力の根絶 男女間の暴力防止に関する意識の向上	B	認める	事業番号	16	施策	人権尊重を阻害する暴力の根絶 男女間の暴力防止に関する意識の向上	B	認める	事業番号	16				
事業名	DV被害者への支援体制及び防止啓発				事業名	DV被害者への支援体制及び防止啓発									
課名	人権同和・男女共同参画課				課名	人権同和・男女共同参画課									
事業内容	目的	DV等被害を早期に発見、保護し、その自立した生活を支えるため、庁内の関係各課とネットワーク化を図り、情報の共有化や支援対策を強化する。また、県や県警、女性相談センターや医療機関等庁外の関係機関と連携することで、DV等被害者の支援を円滑・適正に推進していく。					推進委員の意見・提言	DV被害者・相談者の安全を守るには市役所内外の連携が大切。信頼できる役所づくりと息の長い啓発に頑張してほしい。							
	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急かつ重大な被害を未然に防止するため、スムーズな庁内・庁外の連携を図る。 ・相談者の安全に配慮し、DV等被害者支援の知識や能力を持つ職員の育成に務める。 ・市民へのDV等に対する啓発を推進する。 						被害者の保護などの措置はもちろんですが、自分自身がDVの被害者であるという事が認識できるように導くために、低年齢からの教育体制の拡充が必要だと思います。							
経過	22年度までの経過 今まで、市役所内で個別に各課の事業として対応していた。(各課においてそれぞれ申請手続等が行われており、情報の共有化はできていない。)					身近に起きているが発生するまで把握ができていない。被害者は声をあげられないことが多く、周囲の気づき、勇気を持って拘って行くことが重要である。									
視点	男女共同参画の視点・着眼点 ・被害者が配偶者等からの暴力で心身ともに傷ついていること、被害者には障害者等も含まれていることにも留意し、その人の立場に配慮することを徹底する。また、不適切な対応により、被害者に更なる被害(二次的被害)が生じることのないよう配慮する。 ・DVについて正しい認識が持てるよう、若年齢期からの啓発に努める。					DV等被害者への支援体制について、明瞭に市民へ伝える手段を講じていただきたい。年度目標は、事業の方向性を具体的に示す表記をしてほしい。									
目標	23年度 男女共同参画推進の目標 ・DV等被害者の支援や相談業務を円滑に行い、被害者の安全等に配慮した対応を目指す。 庁内や関係機関とのネットワーク化をはかる 年度内に庁内DV等被害者関係課会議を開催する。 ・DV等への啓発活動を推進する DV防止啓発学習会を開催する。					日本の規則や法律は、基本的には「性善説」のもとに作られている。「性悪説」のもとにたつて、弱い者を守るという目線で考えれば、やらなければならないことが見えてくるはず。									
23年度実績	23年度の実績(実施回数や参加人数等を具体的に) 高知県DV対策支援ネットワーク会議開催23.10.14(主催:高知県) 高知市DV等被害者関係各課業務アンケート実施 23.5.10 高知市市内DV等被害者関係課会議開催 23.11.30 高知県女性相談支援センター報告(連携強化) 高知市市内全中学校(私立中学校含む)にDV防止パンフレット「それってラブラブ・・・？」配布 DV防止啓発パネル展の開催(市役所玄関前ビロイ・地区・中学校・高校) ティッシュラベルへの活用・配布					DV被害者による犯罪がクローズアップされ、防止や支援対策は緊急の課題と言える。相談し易い環境と相談を受けた時の確・迅速な対応が求められる。									
報告	男女共同参画の視点で実施できたことは?	高知市各課・職員に対して ・DV等被害者関係各課担当の業務や課題について情報共有できた。 ・男女共同参画部局推進委員会成果品(DV)の庁内掲示 地域・学校(学習会等) ・DV防止パンフレットは職員が各学校担当者に事業説明しながら配布した。 (学習会開催・パネル掲示案内依頼) ・中高生対象「デートDVって何?」学習会に職員参加 (人権擁護委員との連携・学習会終了後パネル掲示依頼) ・「男女共同参画とは?」「DVとは?」学習会開催 デイ・サービス、女性学級				目標からみる自己(課)評価 (男女共同参画の視点での計画・実施度)	0 1 3 0...改善が必要である。 1...ある程度の成果は認められるが、改善の必要がある。 2...概ね十分だが改善の余地がある。 3...十分である。				DV被害の周辺には、親族の不和、子どもの虐待、夫の悩み等諸問題が潜んでいる可能性がある。周辺問題の解決も念頭に置いた対策が採れることが望ましい。				
	問題点・反省点・これからの課題	DV等被害者関係各課のネットワーク会議の経常化を目指す。 DV・デートDV問題の取扱い・緊急度・意識について学校側に温度差があるため、効果的な啓発について検討していく。								DV等被害の増加する中、重大被害を未然に防止するためにも、各課、様々な支援体制が共通理解を持って連携し取り組むことは大変意義がある。連携の中で問題意識の向上、その後の具体的な対応に生かしていただきたい。					
備考	DV・デートDV学習会等	パネル展「DV」「それってラブラブ・・・？」				回答欄	【被害防止対策(啓発)】 暴力は人権侵害です。絶対に許されるものではありません。暴力の被害を未然に防ぎ、暴力の被害者にも加害者にもならないように、防止啓発に取り組んでいく。 ・DV、デートDVについては子どもの頃からの正しい知識や教育が必要と考え、国の定める「女性に対する暴力をなくする運動」週間(11月12日～25日)にあわせて、DV防止啓発を目的としたパンフレット「それってラブラブ・・・？」を高知市内の全中学校(私立を含む)に配布した。担当が各学校を訪問し、暴力には種類があり「たく」「ける」などの身体的暴力。だけでなく、「無視」「束縛」などの精神的暴力も暴力になり、どの生徒にも無関係ではないことなどを説明し、学習会の開催について案内した。又、「デートDV」について各学校にて学習会を開催している人権擁護委員と連携し、学習会開催時に同席させてもらい、併せてパンフレット配布と学習会後のパネル展示を学校にお願いしている。 ・「それってラブラブ・・・？」はソーレ作成のパンフレットだが、携帯できるように高知市でミニ版を作成し、ポケットティッシュラベルへ活用し、パネル展やイベントでひろく市民に配布し、相談窓口について案内している。								
	・23.9.7一宮老人クラブ学習会	・23.11.14～18市役所玄関前					【被害者保護支援(相談等適切な対処)】 ・高知市役所内各課の連携を強化していく DV等被害者関係各課会議								
	・23.11.11一宮中3年	・23.11.30城西中3年				備考	<委員意見・提言> ・DV等の相談場所がまだまだ周知できていない現状があるのではないのでしょうか。子育て関係の相談窓口へ連絡が入ることもよくあります。子どもへの虐待など、連鎖を断つためにも、学校教育の一環として啓発防止を推進していただきたいものです。 ・日常の業務でもDV事業に接し、深刻さを痛感しています。「良くない例」を示し、「気付かせる」ことも重要ですが、「良い例」=「素敵な男性」=「普通の男性」は、こういうものですよ、という示し方も必要ではないのでしょうか。 ・意見回答欄には、抽象的な表現ではなく、具体的な対応等を挙げていただきたいものです。見通しが立たないことも多分にあることと思います。それも、その案件に関してはこのような状況で見通しが立たないなど、具体的に表現していただきたい。年度途中の実績や報告では、担当課の方も難儀されていることと思いますが、簡潔で尚かつ内容が分かる記述をお願いしたいものです。								
	・23.11.15丸ノ内高2年	・24.1.10東高2年					総合評価 必要度(市民) 大 円の大きさ ... 評価(委員会) 達成度(担当課)								
	配布物<平成23年12月末現在>	・23.11.15～21旭中				必要度(市民) 2.6									
	・ポケットティッシュ(「それってラブラブ・・・?」ラベル)	・24.1.10～24東高				達成度(担当課) 2									
		・DV被害者のための電話相談案内カード(トイレ設置) 249 枚				評価(委員会) 2.17									
	1312 個	・DV防止啓発パンフレット「それってラブラブ・・・?」2種 15,826 枚													
		高知市内全中学校配布(私立含)													

年次報告表

評価表

施策	男女共生によるまちづくりの推進 地域コミュニティにおける安心・安全に暮らすための取組み	C	かわる	事業番号	21-1	施策	男女共生によるまちづくりの推進 地域コミュニティにおける安心・安全に暮らすための取組み	C	かわる	事業番号	21-1		
事業名	地域活動の連携強化 「地域の防災力の向上」	課名	危機管理室			事業名	地域活動の連携強化 「地域の防災力の向上」	課名	危機管理室				
事業内容	<p>目的</p> <p>様々な地域活動等を通して、住民同士の交流を深めるとともに、地区間のネットワークの形成や情報交換することにより、地域の連携を深め、地域の防災力を高めることを目的とする。</p> <p>内容</p> <p>【防災力の向上】 防災人づくり塾の開催(全8回の連続講座) 勉強会・講習会に講師として参加 ホ・ムベ・ジ等による情報提供</p>						<p>防災塾他、市民自らが主体として地域づくりに関わることは大切である。4つの活動の連携を図る意欲的な試みによる男女の参画拡大を期待する。</p> <p>人権や男女共同参画に関するトラブルを早期発見するためにも、地域活動の活性化と様々な活動同士の連携は必要です。活動内容や年代を超えた連携を図っていくための場を設けることは出来ないのでしょうか？例えば高知市のホームページ上に、地域活動団体のコミュニケーションの場を提供するなど。</p> <p>地域コミュニティの活動においても、夫婦の一方だけでなく二人で参加をしていくことにより更に交流が深められるし、楽しさも倍増するのではないかと。</p> <p>東日本大震災を教訓として、老若男女共生によるまちづくりの意識浸透と、安心安全な暮らしのため、即刻実践可能な具体的目標・計画を設定してほしい。</p> <p>いい事業であるが、男女参画の点からいえば、目標に書いてある「女性の参画の拡大」にスポットをあてた取り組みを提示して欲しかった。事業内容が多すぎて、焦点が少しぼける感がある。</p> <p>地域の役員は、新旧の入れ替わりが少なく、限られたコミュニティだけで情報の共有が行われている場合が少なくない。世代間交流が今後の課題である。</p> <p>安心・安全のまちづくりを考えるうえでは、組織の中に男女が共に関わり、企画や運営を行ない、男女共同参画の視点で、取り組むことが重要である。</p> <p>4つの項目をあげ、地域の連携を目指すのは解り易く有効である。特に防災については、今まで女性の視点は入っていない分野であり、積極的な推進が必要である。</p> <p>災害発生時という極限状態で、子どもたち、女性たちが置かれる立場の危険性及び対策を具体的に想定し、あらかじめ検討しておくべきだと思う。</p> <p>防災、減災意識が高まっている今、地域コミュニティーづくりが求められている。それぞれの課による事業が少しでも関連されるよう事前の打ち合わせ等、今後の取り組みに期待する。</p> <p>日常的に忙殺されている女性が参画できる方策(例：アンケート方式等)や、高齢者や子ども、障害者に加え、災害弱者としての女性に対する対策も考慮する必要がある。</p> <p>町内会の活動を通じて地域の防災・交通安全活動・環境文化活動等を積極的にに行い、横断的に連携し合い男女共同参画社会の実現に向けて努力をして行こう。</p>						
経過	<p>22年度までの経過 <22年度の実績></p> <p>【防災力の向上】 防災人づくり塾の開催(全8回の連続講座)【受講生71名(男性62名、女性9名)】 勉強会・講習会に講師として参加 ホ・ムベ・ジ等による情報提供</p>						<p>委員のみさんからいただいたご意見・ご提言を参考にしつつ、業務内容の見直しや検討を行っていきます。 地域の防災力の基礎となるのは、平常時からそれぞれの地域で醸成されている住民同士のつながりであることから、強化のためには、防災活動に限らず日常的な地域活動等を通して年齢や性別を超えた地域全体の連帯意識を高めていくことが大変重要です。 一方で高齢者や子ども、障がい者といった災害時要援護者などを地域で把握し、いざという時に助け合える地域社会づくりにつながる取り組みも重要であると考えます。</p>						
視点	<p>男女共同参画の視点・着眼点</p> <p>地域においては、高齢化・過疎化の進行、人間関係の希薄化や単身世帯の増加等の様々な変化が生じている。地域の防災力を高めるためには、性別や年齢層を問わず、幅広い住民の参加が必要不可欠である。そのためには、地域における政策・方針過程への女性の参画の拡大や特定の性や年齢層で担われている分野への男女双方の参画により、男女共同参画の視点を反映させることが必要である。地区の活動を通じ地域の人々が交流を深めることで、防犯活動、高齢者・障がい者の見守り活動、子育て支援活動など、地域の連携強化ができるものと考えられる。 本年度は、防災人づくり塾の受講生枠の拡大や各地域での講習会・勉強会にも積極的に講師として参加する等の方法で住民の参加機会の拡大に努めた。</p>						<p>委員のみさんからいただいたご意見・ご提言を参考にしつつ、業務内容の見直しや検討を行っていきます。 地域の防災力の基礎となるのは、平常時からそれぞれの地域で醸成されている住民同士のつながりであることから、強化のためには、防災活動に限らず日常的な地域活動等を通して年齢や性別を超えた地域全体の連帯意識を高めていくことが大変重要です。 一方で高齢者や子ども、障がい者といった災害時要援護者などを地域で把握し、いざという時に助け合える地域社会づくりにつながる取り組みも重要であると考えます。</p>						
目標	<p>23年度 男女共同参画推進の目標</p> <p>防災人づくり塾や、地域での講習会等によって、防災活動の中心となる防災リーダーの育成に取り組んでおり、各地域で年齢層や性別・職業といったそれぞれの視点を活かした多様な取り組みを進める。</p>						<p>委員のみさんからいただいたご意見・ご提言を参考にしつつ、業務内容の見直しや検討を行っていきます。 地域の防災力の基礎となるのは、平常時からそれぞれの地域で醸成されている住民同士のつながりであることから、強化のためには、防災活動に限らず日常的な地域活動等を通して年齢や性別を超えた地域全体の連帯意識を高めていくことが大変重要です。 一方で高齢者や子ども、障がい者といった災害時要援護者などを地域で把握し、いざという時に助け合える地域社会づくりにつながる取り組みも重要であると考えます。</p>						
23年度実績	<p>23年度の実績(実施回数や参加人数等を具体的に) <平成23年度の実績> 平成23年12月末時点</p> <p>【防災力の向上】 防災人づくり塾の開催(全8回の連続講座)【受講生250人(男性190人、女性60人)】 勉強会・講習会に講師として参加(189回) ホ・ムベ・ジ等による情報提供</p>						<p>委員のみさんからいただいたご意見・ご提言を参考にしつつ、業務内容の見直しや検討を行っていきます。 地域の防災力の基礎となるのは、平常時からそれぞれの地域で醸成されている住民同士のつながりであることから、強化のためには、防災活動に限らず日常的な地域活動等を通して年齢や性別を超えた地域全体の連帯意識を高めていくことが大変重要です。 一方で高齢者や子ども、障がい者といった災害時要援護者などを地域で把握し、いざという時に助け合える地域社会づくりにつながる取り組みも重要であると考えます。</p>						
報告	<p>男女共同参画の視点で実施できたことは？ (実施できなかった場合はその理由)</p> <p>防災人づくり塾の開催や地域や学校の防災学習会等に講師として参加し、性別や世代を問わず防災行事への参加機会を拡大することで、住民の防災意識と関心を高め、地域の防災力強化に努めた。</p> <p>問題点・反省点・これからの課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 女性等が研修やセミナーに参加しやすくするため、臨時的託児所等の環境づくりが必要である。 様々な場における女性や子ども・高齢者・外国人といった多様な視点による住民ニーズの把握と、それに基づく防災計画等の見直しが必要である。 	<p>目標からみる自己(課)評価 (男女共同参画の視点での計画・実施度)</p> <p>0 2 3</p> <p>0...改善が必要である。 1...ある程度の成果は認められるが、改善の必要がある。 2...概ね十分だが改善の余地がある。 3...十分である。</p>						<p><委員意見・提言></p> <p>・防災人づくり塾にたくさんの応募があり、女性の参加数も多く、意識は年々高まってきたように思われます。勉強会、講習会から一歩進んだ市民の活動を具体的に提示していただけるようお願いいたします。 ・意見回答欄には、抽象的な表現ではなく、具体的な対応等を挙げていただきたいものです。見通しが立たないことも多分にあることと思います。それも、その案件に関してはこのような状況で見通しが立たないなど、具体的に表現していただきたい。年度途中の実績や報告では、担当課の方も難儀されていることと思いますが、簡潔で尚かつ内容が分かる記述をお願いしたいものです。</p>					
備考	<p>23.8.25 「男女共同参画の視点からの東日本大震災への対応について(提言)」について(23.8.2付け府共第316号内閣府男女共同参画局長)を危機管理室に回付</p>						<p>総合評価</p> <p>必要度(市民) 大 円の大きさ … 評価(委員会)</p> <p>達成度(担当課)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>必要度(市民)</th> <th>達成度(担当課)</th> <th>評価(委員会)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2.4</td> <td>1</td> <td>1.56</td> </tr> </tbody> </table>	必要度(市民)	達成度(担当課)	評価(委員会)	2.4	1	1.56
必要度(市民)	達成度(担当課)	評価(委員会)											
2.4	1	1.56											

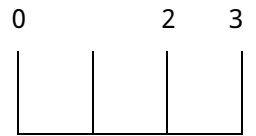
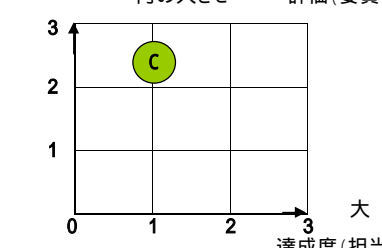
年次報告表

評価表

施策	男女共生によるまちづくりの推進 地域コミュニティにおける安心・安全に暮らすための取組み	C	かかわる	事業番号	21-2	施策	男女共生によるまちづくりの推進 地域コミュニティにおける安心・安全に暮らすための取組み	C	かかわる	事業番号	21-2		
事業名	地域活動の連携強化 「安全安心まちづくり推進事業」				課名	地域コミュニティ推進課	事業名	地域活動の連携強化 「安全安心まちづくり推進事業」				課名	地域コミュニティ推進課
目的	子ども、高齢者及び女性を狙った悪質な犯罪が後を絶たない現状を踏まえ、犯罪の未然防止や犯罪などを発生させない環境づくりを図り、市民が安全に安心して暮らせるまちづくりを推進する。					事業内容	防災塾他、市民自らが主体として地域づくりに関わることは大切である。4つの活動の連携を図る意欲的な試みによる男女の参画拡大を期待する。 人権や男女共同参画に関するトラブルを早期発見するためにも、地域活動の活性化と様々な活動同士の連携は必要です。活動内容や年代を超えた連携を図っていくための場を設けることは出来ないのでしょうか？例えば高知市のホームページ上に、地域活動団体のコミュニケーションの場を提供するなど。 地域コミュニティの活動においても、夫婦の一方だけでなく二人で参加をしていくことにより更に交流が深められるし、楽しさも倍増するのではないかと。 東日本大震災を教訓として、老若男女共生によるまちづくりの意識浸透と、安心安全な暮らしのため、即刻実践可能な具体的目標・計画を設定してほしい。						
経過	22年度までの経過 <22年度の実績> 平成19年度の安全で安心なまちづくり条例の施行時より、高知市、高知市民、各種市民団体及び事業者等が一体となって、地域安全及び地域防犯へ取組むきっかけとなるよう、「安全・安心まちづくりフォーラム」を実施している。また、高知市の安全安心まちづくり事業の検証と新たな事業提案等をいただく目的で、市民団体、学校長及び民間団体等の役員で構成する「安全・安心まちづくり会議」を年2回開催し、フォーラムの内容も含め、様々なご意見、ご提言をいただいている。					推進委員の意見・提言	いい事業であるが、男女参画の点からいえば、目標に書いてある「女性の参画の拡大」にスポットをあてた取り組みを提示して欲しかった。事業内容が多すぎて、焦点が少しぼける感がある。 地域の役員は、新旧の入れ替わりが少なく、限られたコミュニティだけで情報の共有が行われている場合が少なくない。世代間交流が今後の課題である。 安心・安全のまちづくりを考えるうえでは、組織の中に男女が共に関わり、企画や運営を行ない、男女共同参画の視点で、取り組むことが重要である。 4つの項目をあげ、地域の連携を目指すのは解り易く有効である。特に防災については、今まで女性の視点は入っていない分野であり、積極的な推進が必要である。 災害発生時という極限状態で、子どもたち、女性たちが置かれる立場の危険性及び対策を具体的に想定し、あらかじめ検討しておくべきだと思う。 防災、減災意識が高まっている今、地域コミュニティーづくりが求められている。それぞれの課による事業が少しでも関連されるよう事前の打ち合わせ等、今後の取り組みに期待する。 日常的に忙殺されている女性が参画できる方策(例：アンケート方式等)や、高齢者や子ども、障害者に加え、災害弱者としての女性に対する対策も考慮する必要がある。 町内会の活動を通じて地域の防災・交通安全活動・環境文化活動等を積極的にを行い、横断的に連携し合い男女共同参画社会の実現に向けて努力をして行こう。						
視点	男女共同参画の視点・着眼点 現在、各地域において地域安全・防犯活動を実施している団体の構成員は男性が多いことから、子どもを持つ母親らに地域安全、地域防犯活動の必要性を認識していただくとともに、活動への積極的な参加を促し、各種団体との連携・協力の下、危機管理能力の高い地域風土を確立し、市民の安全で安心な生活環境を形成する。					回答欄	安全安心まちづくり事業において、子どもを持つ母親らの意識啓発並びに地域安全・防犯活動への参加を促すため、保育園や市立小学校への「安全・安心まちづくりフォーラム」開催案内チラシを配布し、フォーラムへの参加を呼びかけ、地域安全・防犯活動の必要性を認識いただくとともに、活動への参加を促進する。						
目標	23年度 男女共同参画推進の目標 「安全・安心まちづくりフォーラム」(平成23年度実施予定)について、保育園及び小学校へのチラシ配布を実施し、子どもを持つ母親らの参加を促す。					備考	<委員意見・提言> ・19年度から安全・安心まちづくりフォーラムを開催しているとのことで、その内容や参加者の声などを文章で拝見させていただきたいものです。また、年2回の安全・安心まちづくり会議の意見・提言の内容もお聞かせいただきたい。実施の欄には予定のものも入れておいてください。 ・意見回答欄には、抽象的な表現ではなく、具体的な対応等を挙げていただきたいものです。見通しが立たないことも多分にあることと思います。それも、その案件に関してはこのような状況で見通しが立たないなど、具体的に表現していただきたい。年度途中の実績や報告では、担当課の方も難儀されていることと思いますが、簡潔で尚かつ内容が分かる記述をお願いしたいものです。						
23年度実績	23年度の実績(実施回数や参加人数等を具体的に) 保育園(年長児)及び市立小学校(1～3年)の児童の保護者を対象として、チラシを配布した。(前年比11,000枚増)					総合評価	必要度(市民) 大 円の大きさ … 評価(委員会) 3 2 1 0 1 2 3 大 達成度(担当課)						
報告	男女共同参画の視点で実施できたことは? チラシを大幅に増刷し、保育園及び市立小学校に配布することができた。	目標からみる自己(課)評価 (男女共同参画の視点での計画・実施度) 0 2 3 0…改善が必要である。 1…ある程度の成果は認められるが、改善の必要がある。 2…概ね十分だが改善の余地がある。 3…十分である。	問題点・反省点・これからの課題 チラシの配布だけでは安全安心まちづくりフォーラムへの参加促進効果は小さいことから、フォーラムの内容について検討し、若い世代の母親らが興味をもてるものとしていく必要がある。			総合評価 必要度(市民) 2.4 達成度(担当課) 1 評価(委員会) 1.56							
備考													

年次報告表

評価表

施策	男女共生によるまちづくりの推進 NPO・ボランティア・地域活動における男女共生の促進	C	かかわる	事業番号	21-3	施策	男女共生によるまちづくりの推進 NPO・ボランティア・地域活動における男女共生の促進	C	かかわる	事業番号	21-3					
事業名	地域活動の連携強化 「地区スポ-ツ推進事業」	課名	スポ-ツ振興課			事業名	地域活動の連携強化 「地区スポ-ツ推進事業」	課名	スポ-ツ振興課							
事業内容	目的 市民スポ-ツの普及・振興のため地域スポーツ活動を奨励し、地域の連帯性を高め市民の健康・体力の保持増進を図るとともに、生涯スポーツを推進することを目的とする。また、地区間のネットワークの形成や情報交換することにより、地域の連携を深める。 内容 小学校区域での地区運動会やスポーツ教室を開催するとともに、地域での各種団体(PTA・町内会・地区青少年育成協議会・地区交通安全会議等)との連携による事業を開催することで、スポーツ以外でもさまざまな地域活動の連携強化が図られていく。					防災塾他、市民自らが主体として地域づくりに関わることは大切である。4つの活動の連携を図る意欲的な試みによる男女の参画拡大を期待する。 人権や男女共同参画に関するトラブルを早期発見するためにも、地域活動の活性化と様々な活動同士の連携は必要です。活動内容や年代を超えた連携を図っていくための場を設けることは出来ないのでしょうか？例えば高知市のホームページ上に、地域活動団体のコミュニケーションの場を提供するなど。 地域コミュニティの活動においても、夫婦の一方だけでなく二人で参加をしていくことにより更に交流が深められるし、楽しさも倍増するのではないかと。 東日本大震災を教訓として、老若男女共生によるまちづくりの意識浸透と、安心安全な暮らしのため、即刻実践可能な具体的目標・計画を設定してほしい。										
	経過 22年度までの経過 <22年度の実績> 地区運動会の開催・・・(34地区) 他各地区でのスポーツ教室・レクリエーション事業等の開催・・・(38地区)					推進委員の意見・提言 いい事業であるが、男女参画の点からいえば、目標に書いてある「女性の参画の拡大」にスポットをあてた取り組みを提示して欲しかった。事業内容が多すぎて、焦点が少しぼける感がある。 地域の役員は、新旧の入れ替わりが少なく、限られたコミュニティだけで情報の共有が行われている場合が少なくない。世代間交流が今後の課題である。 安心・安全のまちづくりを考えるうえでは、組織の中に男女が共に関わり、企画や運営を行ない、男女共同参画の視点で、取り組むことが重要である。 4つの項目をあげ、地域の連携を目指すのは解り易く有効である。特に防災については、今まで女性の視点は入っていない分野であり、積極的な推進が必要である。										
	視点 男女共同参画の視点・着眼点 スポーツを通じ、高齢者・障がい者・男女ともに誰もがいくつになっても、健康づくり・生きがいづくりをしながら地域活動に参加できるように推進し、地域の連携強化を促す。					災害発生時という極限状態で、子どもたち、女性たちが置かれる立場の危険性及び対策を具体的に想定し、あらかじめ検討しておくべきだと思う。 防災、減災意識が高まっている今、地域コミュニティづくりが求められている。それぞれの課による事業が少しでも関連されるよう事前の打ち合わせ等、今後の取り組みに期待する。 日常的に忙殺されている女性が参画できる方策(例:アンケート方式等)や、高齢者や子ども、障害者に加え、災害弱者としての女性に対する対策も考慮する必要がある。 町内会の活動を通じて地域の防災・交通安全活動・環境文化活動等を積極的に行い、横断的に連携し合い男女共同参画社会の実現に向けて努力をして行こう。										
	目標 23年度 男女共同参画推進の目標 男性だけでなく女性も参画し、意見交換をしながら幅広く地域活動を推進していく。					回答欄 地域活動を行っている様々な団体・組織があるが、連携を取った活動がなされるように、お互いに情報交換や共催事業を開催することも必要である。その際に、地域スポーツ振興を図る地区体育会が連携の中で占める割合を大きくできるように、組織の充実を図っていく。										
	23年度実績 23年度の実績(実施回数や参加人数等を具体的に) <平成23年度の実績> 地区対抗スポーツ大会参加者数 男性600人、女性400人、計 約1,000人 …(ソフトボール・ゲートボール・グラウンドゴルフ・ソフトバレー・バレー・バドミントン・卓球・バウンドテニス)					備考 <委員意見・提言> ・小学校区域での運動会開催や、スポ-ツ教室で、楽しく親密に地域活動連携強化が図れることを期待します。高齢者、若年者への積極的な参加を助めていただきたいものです。 ・意見回答欄には、抽象的な表現ではなく、具体的な対応等を挙げていただきたいものです。見通しが立たないことも多分にあることと思います。それも、その案件に関してはこのような状況で見通しが立たないなど、具体的に表現していただきたい。年度途中の実績や報告では、担当課の方も難儀されていることと思いますが、簡潔で尚かつ内容が分かる記述をお願いしたいものです。										
報告	男女共同参画の視点で実施できたことは？ (実施できなかった場合はその理由) 地区スポーツ推進にあたり、計画推進するための意見集約に男女共同参画の視点にたった計画を十分意識してすすめることができなかった。					目標からみる自己(課)評価 (男女共同参画の視点での計画・実施度) 0 2 3 										
	問題点・反省点・これからの課題 地区体育会の役員の中で男女比数を初めて拾いあげたが、93名中10名が女性であり、今後、比率をあげることが男女共同参画に影響するものか検討していく。					総合評価 必要度(市民) 大 円の大きさ … 評価(委員会) 										
備考						<table border="1"> <thead> <tr> <th>必要度(市民)</th> <th>達成度(担当課)</th> <th>評価(委員会)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2.4</td> <td>1</td> <td>1.56</td> </tr> </tbody> </table>					必要度(市民)	達成度(担当課)	評価(委員会)	2.4	1	1.56
必要度(市民)	達成度(担当課)	評価(委員会)														
2.4	1	1.56														

年次報告表

評価表

施策	男女の多様な働き方・生き方を可能にするための環境整備 子育て支援体制の充実	D	支える	事業番号	28	施策	男女の多様な働き方・生き方を可能にするための環境整備 子育て支援体制の充実	D	支える	事業番号	28						
事業名	地域における子育て支援				課名	子育て支援課	事業名	地域における子育て支援				課名	子育て支援課				
事業内容	目的 地域全体で子育てを支援する基盤の形成を図り、地域の子育て家庭に対する支援を行う。 内容 子育て支援センター（全7施設）や保育所において、子育て相談、育児講座を実施。子育てサークル、ボランティアの育成支援、園庭開放などを行う。【事業主体：高知市 市単事業】平成15年度から事業実施。					子育て講座の開催やネットワーク作りは、孤立しがちな子育て家への支援として大切。今後一層充実させてほしい。 地域における子育て支援は、重要な課題であると考えます。個々の子育てを支援する事になりますので、思慮深い活動が求められますが、それ以上に子育て家庭を孤立させないためにも、より細やかな支援の輪をつくることが求められています。											
	経過 22年度までの経過 <平成22年度の実績> 子育てパートナーとして4名の方が、子育て支援センターや保育所等の施設で、ボランティアとして活動。（活動内容）子どもと一緒に遊んだり、交流したりする。絵本の読み聞かせ。子育て講座等の託児。 （実施時間・回数）1回あたり2時間程度 年間約100回実施（4人の延べ回数） 子育てパートナーを広報「あかるいまち」や市ホームページ等で募集して、子育てボランティアとして活躍してもらえらる方の増員を図った。 平成22年度 登録者数：4名					目標から事業への姿勢や今後の方向性が見えてこない。地域のふれあいセンターなどで既存の育児サークルが活動できる場の提供等も視野に入れてほしい。 子育てパートナーが4名からもっと増えるとよいですね。ボランティアを増やすための創意工夫が、この事業の肝ですね。											
視点	男女共同参画の視点・着眼点 共働き世帯の増加や核家族化等、家庭環境は時代とともに変化しており、地域での人間関係の希薄化や、子育ての孤立化は深刻な状況となっており、子育て不安は高まっている。こうした状況を改善するためにも、支援体制を充実させていかなくてはならない。子育てに関する課題も多様化し、親子を、また親同士を「つなぐ」という取組みが重要になってきている。地域ぐるみで子育てを進めていくことが大切である。					「子育てボランティア」の広報が不十分。地域における子育て支援は当然大切だが、費用対効果が見合っている事業なのか、検証が必要である。 子育てには、母親と父親の役割が共に必要である。地域の子育て支援も男女が共に協力して、親子支援をすることで、地域の活性化にも繋がる。											
	目標 23年度 男女共同参画推進の目標 子育て家庭の孤独や孤立を軽減することを目的とした、地域の子育て支援のネットワークづくりを推進する。					地域全体で「子育て」の趣旨は良いが、全体像が見えていない。それが登録者4名に表れているのでは。先ず全体像を示すことが大切。「子育てパートナー」の位置づけ、役割を明確にすることも重要である。 親のニーズを常に確認把握しつつ、魅力的なプランを追求していかれたら良いと思う。											
23年度実績	23年度の実績（実施回数や参加人数等を具体的に） 子育てパートナーとして5名の方が、子育て支援センターや保育所等の施設で、ボランティアとして活動。（活動内容）子どもと一緒に遊んだり、交流したりする。絵本の読み聞かせ。子育て講座等の託児。 子育てパートナーを広報「あかるいまち」や市ホームページ等で募集して、子育てボランティアとして活躍してもらえらる方の増員を図った。 平成23年度 登録者数：5名					虐待が多いのは母親にしんどさが集中するためである。母親への支援を中心に、地域におけるきめ細かい人間関係のシステム化が必要である。 昔、向こう三軒両隣と謂はれ、お互いにコミュニケーションを計ってきたけれど、最近は共働き家庭が多くなったため、子どもが鍵っ子になり、親子のふれあいがなくなり、不良や不登校他の原因の一つにもなっている。											
	報告 男女共同参画の視点で実施できたことは？ （実施できなかった場合はその理由） 子育て支援センターや保育所等の施設でボランティアとして活動できた。 問題点・反省点・これからの課題 子育てボランティア増に向け、広報等研究が必要である。					回答欄 ・子育て家庭の孤立化を防ぎ、地域で子育てを支援するネットワーク作りに取り組む。 ・子育てボランティアを増やすため、広報等の方法も工夫する。											
備考	目標からみる自己（課）評価 （男女共同参画の視点での計画・実施度） 0 1 3  0…改善が必要である。 1…ある程度の成果は認められるが、改善の必要がある。 2…概ね十分だが改善の余地がある。 3…十分である。					委員意見・提言 ・地域における子育て支援は、幅広い様々な活動が展開されているはずですが。それらの経過報告を挙げていただきたい。また、子育て支援において、ボランティアのパワーは重要ですし、不可欠なものです。ボランティアが増えない現状をしっかりと見据えて検討していただきたいものです。ボランティアにとっても居心地のいい場所の提供をご配慮ください。 ・意見回答欄には、抽象的な表現ではなく、具体的な対応等を挙げていただきたいものです。見通しが立たないことも多分にあることと思います。それも、その案件に関してはこのような状況で見通しが立たないなど、具体的に表現していただきたい。年度途中の実績や報告では、担当課の方も難儀されていることと思いますが、簡潔で尚かつ内容が分かる記述をお願いしたいものです。											
						総合評価 必要度（市民） 大 円の大きさ … 評価（委員会）  達成度(担当課)											
					<table border="1"> <thead> <tr> <th>必要度 (市民)</th> <th>達成度 (担当課)</th> <th>評価 (委員会)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2.7</td> <td>2</td> <td>2.33</td> </tr> </tbody> </table>							必要度 (市民)	達成度 (担当課)	評価 (委員会)	2.7	2	2.33
必要度 (市民)	達成度 (担当課)	評価 (委員会)															
2.7	2	2.33															

年次報告表

評価表

施策	男女の多様な働き方・生き方を可能にするための環境整備	D	支える	事業番号	29 -1	施策	男女の多様な働き方・生き方を可能にするための環境整備	D	支える	事業番号	29						
	子育て支援体制の充実						子育て支援体制の充実										
事業名	子育て相談					事業名	子育て相談										
	課名 保育課						課名 保育課・子育て支援課										
事業内容	<p>目的</p> <p>核家族化が進み、育児についての見聞や経験が少なくなっているとともに、相談相手が無いなどで、家庭が孤立化していることから、育児に不安や悩みを持つ親が多くなっている現状を踏まえ、保育園の社会的役割を自覚し、地域ぐるみで子育てを進めていくために子育て相談事業に取り組んでいる。</p> <p>内容</p> <p>市内保育所では、公民を問わず多数の園で子育て相談を実施しており、子ども同士の交流や親同士の交流、育児についての相談活動を行い、育児を行う親の孤立化や心理的負担感からの開放に努めている。公立保育園29園では、毎月第2木曜日の午前9時30分～11時30分までを基本とし相談活動を行っている。園により、月2回実施している園もある。また子育て支援センターを設置している園では、地域の親子に呼びかけを行い各種事業を行っている。</p> <p>【相談員】：保育所の職員（園長・保育士等） 支援センター設置園では相談事業担当の保育士を配置</p>					推進委員の意見・提言	<p>相談相手が得難い保護者を支える大きな役割を担っている。相談時間や体制を一層充実させ働き方の多様な保護者のニーズに答えたい。</p> <p>単純な相談件数よりも、どのような相談があり、どのように解決へ導いたかが重要ではないでしょうか。そういった意味からも、相談者へのフォローアップなどの後処理がどうなっているのかが気になります。個人情報保護の観点から、安易な調査の実施は控えなければなりません、何らかの方法で結果を調べていただきたい。</p> <p>積極的に交流が図れない人にも目を向け、子育て家庭が孤立しないようきめの細かい施策を期待したい。</p> <p>子育て相談の内容が、親子関係や夫婦関係にまで広がりつつある昨今、保育士等相談員の技量や質向上が図れるような体制を構築していただきたい。</p> <p>子育てに悩みをかかえた親のもと、子供が健全に成長していくとは考え難い。親も子ども双方を守るための事業であるので、力を入れて欲しい事業である。</p> <p>地域で孤立をして子育てしている人は多く、相談件数の多さは不安の表れ。ただ、男性も育児に悩んでいるのか、ジェンダーの視点での分析が欲しい。</p> <p>子育ては大変ですが、母親として父親として関わることの大切さを伝えながら、相談に応じて、親としての責任を持つことも教えて支援をしてほしい。</p> <p>社会が多様化する中で、家庭は孤立するという環境にあり、「つなぐ」は重要。そのつなぎの中に男性をどう入れていこうかがこれからの課題。</p> <p>このような相談を通じて親の関心事を把握し、他の事業の充実にもつなげていってはいかがでしょうか。</p> <p>事業番号28の子育て支援課の行う事業と連携することで相乗効果が期待できるのではないかと思います。父親参加や親同士をつなぐ息の長い事業として継続した取り組みを望む。</p> <p>親が一番相談しやすいのは子どもが通学している保育所や学校である。それらの機関とともに取り組む方が成果につながりやすい。</p> <p>子ども相手のボランティアが欲しいところである。有償ボランティアでも子どもと遊んでくれれば、子どもからも喜んでもらえるだろうと思う。</p>										
	経過	<p>22年度までの経過 <22年度の実績></p> <p>公立保育園子育て相談実施状況 保育園子育て相談 実施園 28園 月1回(14園)・月2回(12園)・月3回(2園) 利用者延人数 2,242名 (相談内容2,585件) 子育て支援センター 設置園 若葉保育園 週5回 利用者延人数 2,521名 (相談内容2,607件)</p>					回答欄	<p>【保育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> 入所児童の保護者及び地域の子育て家庭への支援が保育所の役割の一つであり、子育て相談事業は今後も継続する。 今後、多様な相談内容に応えたり、親同士の交流をコーディネートしていくための体制づくりは課題であると考えている。 一方、保育所において必要となるスタッフを全て独自に確保することは困難であるので、他の子育て支援関係機関やボランティア等との連携・協力の仕組みが必要になると考えている。 相談、アドバイスだけでなく、実際の保育を通して保護者の子育て力向上に資するため、平成23年度から、保育園における保護者の1日保育士体験事業を開始した。(平成23年度実施3保育所 幼稚園でも実施。) <p>【子育て支援課】</p> <ul style="list-style-type: none"> 相談体制の強化と相談業務に当たる職員の質の向上を図っていく。 家庭の不安や悩みに対して、関係機関がきちんと連携しながら対応していく。 									
視点	<p>男女共同参画の視点・着眼点</p> <p>共働き世帯の増加や核家族化等、家庭環境は時代とともに変化しており、地域での人間関係の希薄化や、子育ての孤立化は深刻な状況となっており、子育て不安は高まっている。こうした状況を改善するためにも、支援体制を充実させていかなくてはならない。子育てに関する課題も多様化し、親子を、また親同士を「つなぐ」という取組みが重要になってきている。地域ぐるみで子育てを進めていくことが大切である。</p>					備考		<p><委員意見・提言></p> <p>子育て相談の内容が多岐にわたり、複雑化してきている昨今、相談員の技量と度量が求められます。相談員の研修の場を広め、かつ深めていただきたいものです。様々な問題が浮上してきている中、相談者の関係機関への連携は、まず、相談者の心情を配慮してほしいものです。それと、利用者数や相談数は、実数と延人数を挙げていただきたい。実数を挙げることはとても重要で難しくはないと思いますが、意見回答欄には、抽象的な表現ではなく、具体的な対応等を挙げていただきたい。見通しが立たないことも多分にあることと思います。それも、その案件に関してはこのような状況で見通しが立たないなど、具体的に表現していただきたい。年度途中の実績や報告では、担当課の方も難儀されていることと思いますが、簡潔で尚かつ内容が分かる記述をお願いしたいものです。</p>									
目標	<p>23年度 男女共同参画推進の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 男女が共に育児に参加する社会の構築 育児にかかる保護者の不安・負担を軽減し、子どもたちの成長にとって、より良い環境を整える。 						総合評価	<p>必要度（市民）</p> <p>大 円の大きさ … 評価（委員会）</p>									
23年度実績	<p>23年度の実績(実施回数や参加人数等を具体的に)</p> <ul style="list-style-type: none"> 子育て支援センター設置園(若葉保育園) 子育て相談の実施(週5回) 子育て相談実施園 28園(月1～3回) 保護者の子育て力向上事業(1日保育士体験) 3園 延べ参加者数 51名(11月末現在) 保護者が保育士体験を通して、子どもの生活の様子を知り、子どもとの関わり方を学ぶとともに保育所への理解を深める。 					備考		<p>【子育て支援課】</p> <ul style="list-style-type: none"> 相談体制の強化と相談業務に当たる職員の質の向上を図っていく。 家庭の不安や悩みに対して、関係機関がきちんと連携しながら対応していく。 									
報告	<p>男女共同参画の視点で実施できたことは？</p> <p>(実施できなかった場合はその理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業の実施は、子育てに関する保護者の不安解消等に繋がっている。 1日保育士体験には、父親の参加もあり、子育てに積極的に参加しようとする父親への支援にもなっている。 		<p>目標からみる自己(課)評価</p> <p>(男女共同参画の視点での計画・実施度)</p> <p>0 1 3</p> <p>0…改善が必要である。 1…ある程度の成果は認められるが、改善の必要がある。 2…概ね十分だが改善の余地がある。 3…十分である。</p>				備考	<p>総合評価</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>必要度（市民）</th> <th>達成度（担当課）</th> <th>評価（委員会）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2.7</td> <td>2</td> <td>2.33</td> </tr> </tbody> </table>					必要度（市民）	達成度（担当課）	評価（委員会）	2.7	2
必要度（市民）	達成度（担当課）	評価（委員会）															
2.7	2	2.33															
備考	<p>(多い相談内容)</p> <p>遊び場提供 ・小さな子どもたちが安全に遊べる場・機会が少なくなっている。 ・子育て中の保護者が情報交換や交流の場を求めている。</p> <p>就園相談 保育園の見学、園での生活についての質問など</p> <p>食事 離乳食、好き嫌い、アレルギー等の相談</p>					備考	<p>備考</p>										

年次報告表

評価表

施策	男女の多様な働き方・生き方を可能にするための環境整備	D	支える	事業番号	29-2	施策	男女の多様な働き方・生き方を可能にするための環境整備	D	支える	事業番号	29							
	子育て支援体制の充実						子育て支援体制の充実											
事業名	子育て相談	課名	子育て支援課	事業名	子育て相談	課名	保育課・子育て支援課											
事業内容	<p>目的</p> <p>子育てに関する不安や悩み、孤立感を抱え、養育困難に陥ったりさまざまな問題が発生している。家庭児童福祉の向上を図るため、相談援助機能を充実させる。</p> <p>内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 子ども家庭支援センターに子ども家庭相談員3名及び保健師等を配置し、子育て全般についての相談業務、虐待などの通告受理対応を行う。また、関係機関への連絡調整を行う。 地域子育て支援センターにおいても子育て相談事業を行う。 					<p>相談相手が得難い保護者を支える大きな役割を担っている。相談時間や体制を一層充実させ働き方の多様な保護者のニーズに答えたい。</p> <p>単純な相談件数よりも、どのような相談があり、どのように解決へ導いたかが重要ではないでしょうか。そういった意味からも、相談者へのフォローアップなどの後処理がどうなっているのかが気になります。個人情報保護の観点から、安易な調査の実施は控えなければなりません。が、何らかの方法で結果を調べていただきたい。</p> <p>積極的に交流が図れない人にも目を向け、子育て家庭が孤立しないようキメの細かい施策を期待したい。</p> <p>子育て相談の内容が、親子関係や夫婦関係にまで広がりがつある昨今、保育士等相談員の技量や質向上が図れるような体制を構築していただきたい。</p> <p>子育てに悩みをかかえた親のもと、子供が健全に成長していくとは考え難い。親も子ども双方を守るための事業であるので、力を入れて欲しい事業である。</p> <p>地域で孤立をして子育てしている人は多く、相談件数の多さは不安の表れ。ただ、男性も育児に悩んでいるのか、ジェンダーの視点での分析が欲しい。</p> <p>子育ては大変ですが、母親として父親として関わることの大切さを伝えながら、相談に応じて、親としての責任を持つことも教えて支援してほしい。</p> <p>社会が多様化する中で、家庭は孤立するという環境にあり、「つなぐ」は重要。そのつなぎの中に男性をどう入れていこうかがこれからの課題。</p> <p>このような相談を通じて親の関心事を把握し、他の事業の充実にもつなげていってはいかがでしょうか。</p> <p>事業番号28の子育て支援課の行う事業と連携することで相乗効果が期待できるのではないかと思います。父親参加や親同士をつなぐ息の長い事業として継続した取り組みを望む。</p> <p>親が一番相談しやすいのは子どもが通学している保育所や学校である。それらの機関とともに取り組む方策が成果につながりやすい。</p> <p>子ども相手のボランティアが欲しいところである。有償ボランティアでも子どもと遊んでくれば、子どもからも喜んでもらえるだろうと思う。</p>												
	経過	<p>22年度までの経過 <平成22年度の実績></p> <ul style="list-style-type: none"> ○子ども家庭支援センター相談件数 886件(件数は延べ件数) (内訳 児童虐待相談 166件、養護(養育困難)相談 249件、その他471件) ○地域子育て支援センター相談件数 「あい」162件 ・「ぼけっとランド」177件 					推進委員の意見・提言											
視点	<p>男女共同参画の視点・着眼点</p> <p>共働き世帯の増加や核家族化等、家庭環境は時代とともに変化しており、地域での人間関係の希薄化や、子育ての孤立化は深刻な状況となっており、子育て不安は高まっている。こうした状況を改善するためにも、支援体制を充実させていかなくてはならない。子育てに関する課題も多様化し、親子を、また親同士を「つなぐ」という取組みが重要になってきている。地域ぐるみで子育てを進めていくことが大切である。</p>																	
目標	<p>23年度 男女共同参画推進の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男女が共に育児に参加する社会の構築 ・育児にかかる保護者の不安・負担を軽減し、子どもたちの成長にとって、より良い環境を整える。 																	
23年度実績	<p>23年度の実績(実施回数や参加人数等を具体的に)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H23年4月に地域子育て支援センター(くすくすひろっぱ)を新設し、相談事業を拡充。 ・子ども家庭支援センター及び地域子育て支援センター(あい、ぼけっとランド、くすくすひろっぱ)にて相談事業を実施。 																	
報告	<p>男女共同参画の視点で実施できたことは？ (実施できなかった場合はその理由) 施設新設をし、相談事業の拡充を図った。</p>		<p>目標からみる自己(課)評価 (男女共同参画の視点での計画・実施度)</p> <p>0 1 3</p> <p>0...改善が必要である。 1...ある程度の成果は認められるが、改善の必要がある。 2...概ね十分だが改善の余地がある。 3...十分である。</p>			回答欄	<p>【保育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入所児童の保護者及び地域の子育て家庭への支援が保育所の役割の一つであり、子育て相談事業は今後も継続する。 ・今後、多様な相談内容に応えたり、親同士の交流をコーディネートしていくための体制づくりは課題であると考えている。 ・一方、保育所において必要となるスタッフを全て独自に確保することは困難であるので、他の子育て支援関係機関やボランティア等との連携・協力の仕組みが必要になると考えている。 ・相談、アドバイスだけでなく、実際の保育を通して保護者の子育て力向上に資するため、平成23年度から、保育園における保護者の1日保育士体験事業を開始した。(平成23年度実施3保育所 幼稚園でも実施。) <p>【子育て支援課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談体制の強化と相談業務に当たる職員の質の向上を図っていく。 ・家庭の不安や悩みに対して、関係機関がきちんと連携しながら対応していく。 											
	<p>問題点・反省点・これからの課題 相談体制の強化と相談技術の向上。</p>						<p><委員意見・提言></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て相談の内容が多岐にわたり、複雑化してきている昨今、相談員の技量と度量が求められます。相談員の研修の場を広め、かつ深めていただきたいものです。様々な問題が浮上してきている中、相談者の関係機関への連携は、まず、相談者の心情を配慮してほしいものです。それと、利用者数や相談数は、実数と延人数を挙げていただきたい。実数を挙げることはとても重要で難しくはないと思いますが、意見回答欄には、抽象的な表現ではなく、具体的な対応等を挙げていただきたいものです。見通しが立たないことも多分にあることと思います。それも、その案件に関してはこのような状況で見通しが立たないなど、具体的に表現していただきたい。年度途中の実績や報告では、担当課の方も難儀されていることと思いますが、簡潔で尚かつ内容が分かる記述をお願いしたいものです。 											
備考	<p>(多い相談内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童福祉サービス(ショートステイ等)の利用に関する相談 ・育児・しつけに関する相談 ・乳幼児の健康・発達に関する相談 					備考	<p>総合評価 必要度(市民) 大 円の大きさ ... 評価(委員会)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>必要度(市民)</th> <th>達成度(担当課)</th> <th>評価(委員会)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2.7</td> <td>2</td> <td>2.33</td> </tr> </tbody> </table>						必要度(市民)	達成度(担当課)	評価(委員会)	2.7	2	2.33
	必要度(市民)	達成度(担当課)	評価(委員会)															
2.7	2	2.33																

年次報告表

評価表

施策	推進体制の充実				E	高める	事業番号	32	施策	推進体制の充実				E	高める	事業番号	32						
	「男女共同参画推進」の視点の徹底									「男女共同参画推進」の視点の徹底													
事業名	男女共同参画の視点の浸透							課名	男女共同参画の視点の浸透							課名	人権同和・男女共同参画課						
事業内容	目的 男女共同参画社会の実現をめざし、平成23年3月に策定した「高知市男女共同参画推進プラン2011」に基づき、あらゆる分野で行われる様々な施策に男女共同参画の視点を盛り込む。 内容 ・各種事業実施を担当する職員への啓発を促すため、男女共同参画の視点を意識してもらう。 ・各施策での男女共同参画推進のための視点を明確にすることで、事業実施に際して、実際に男女共同参画の推進に寄与する。							課名	男女共同参画の意味を担当課が理解し事業を行うことは、参画推進の出発点です。原点からの出発が実りをもたらすよう各課の取り組みに期待します。 なかなか難しい課題ではありますが、この事業の結果によって未来は大きく変わると思います。難しい意味よりも先に「男女共同参画」という言葉を覚えてもらうなど、「段階的な浸透が必要だ」と思います。 意識の高い人も、そうでない人も色々いる。あまり難しいことを求めないで、家庭や職場で身近なところから取り組めることを勧めて行ってほしい。 共同参画の視点徹底に向け、重点課題を選定し深く検討していくことで視点的浸透を期待したい。重点課題にて、目標・計画は詳細且つ具体的に挙げたい。 考え方が浸透するように努力することはいいことであると思う。視点・着眼点に書かれている「推進阻害要因を明確する」ことをぜひ行ってほしい。教育水準の低さも要因の一つだと思うが、明示することによって何かが変わるかもしれない。 担当課が中心になって、全庁各課への声かけ・啓発は大変重要。職員一人ひとりが「男女共同参画」の意識が持てるよう継続的に働きかけを。 男女共同参画推進本部を中心として、庁内組織が連携した取り組みができるように共通認識をしたうえで、市民に啓発や広報活動をしてほしい。 7事業に絞り込んだ中から推進を阻害する要因を明確にし、それをしっかり分析して解決する為の具体的な取り組みへと進みたい。 「自分には関係ない」と思っている人がまだまだ大半だと思う。たゆまぬ努力が必要であると考えている。 市役所各課、各事業を「つなぐ」役割を今後も果たしてほしい。 浸透のためには「ひろく・なんども・やりつづける」がポイント。またきびしい状況のなかで生活している人々にも、必要かつ大事なことだと実感してもらえるものに。 誰でも見られるという点では本庁玄関前でのパネル展が最適である。但しパネルの展示だけではなく、参加者が理解できる様な解説者が必要であると思う。							課名	人権同和・男女共同参画課						
	22年度までの経過 <平成22年度の実績> ・2000年に「男女共同参画推進プラン」を作成し男女共同参画社会実現に向けて取り組んだ。(評価対象事業152事業) ・2006年は前プランを改定し、その理念を引き継ぎ、「高知市男女共同参画推進プラン2006」を策定し、男女共同参画推進に向けて取り組んできた。(評価対象事業72事業/123事業) ・2011年は前2006プランを改定し「高知市男女共同参画推進プラン2011」を策定。評価対象事業は、毎年重点課題を選定し、決定。(平成23年度は7事業/37事業)								推進委員の意見・提言														
視点	男女共同参画の視点・着眼点 ・男女共同参画の視点を確認しながら、事業実施に務める。 ・現状を把握することで、視点を理解し、浸透させて行くための方法を探すとともに、推進を阻害する要因を明確にする。							回答欄 「高知市男女共同参画推進プラン2011」は確実に何かが「変わる」「変えていく」プランである。できることから着実に取り組んでいきたいと考えている。 まず、高知市職員に「男女共同参画の視点をプラス」する。高知市の約2000事業を施行している職員に男女共同参画の視点を持ってもらい、事業を推進していくことで、市民へ男女共同参画の意識が浸透していくことに努めていく。 そのために 庁内組織である高知市男女共同参画推進本部を中心とした取組みを促し、その取組み状況を庁内掲示し、市職員に広く情報公開していく。 本議会：「高知市男女共同参画推進プラン2011」の重点課題(評価対象事業)を決定 幹事会：部局推進委員会の課題決定(「高知市男女共同参画推進プラン2011」の重点課題における調査・研究) 部局推進委員会：23年「高知市男女共同参画推進プラン2011」の重点課題における調査・研究 報告会(幹事会)を開催し、調査・研究成果について報告 庁内掲示 また、23年度の目標に設定している 講演会等開催時の託児の手配等配慮 オムツ替えスペース等の設置 は誰にもわかりやすい男女共同参画の視点に基づく施策である。 市職員だけでなく不特定多数の人々(来庁する市民や高知市発信の文書を目にした者)に訴えていくことができるので、必ず実現させたいと考えている。まず、ここから始めていきたい。															
目標	23年度 男女共同参画推進の目標 市主催講演会等の案内通知文に、必ず子育て世代への配慮(託児の手配等)を入れるよう、全庁に呼びかける。 市役所庁舎内の授乳・オムツ替えスペース等の現状を把握し、新設を含めて今後の施設改善を図る。							目標からみる自己(課)評価 (男女共同参画の視点での計画・実施度) 0 2 3 															
23年度実績	23年度の実績(実施回数や参加人数等を具体的に) 男女共同参画推進本部の活動 本議会・幹事会・部局推進委員会の開催(庁内掲示) 学習会等の参加・開催 旭小学校学習会、パネル展学習会(保育園児)、「デートDV」学習会(講師：人権擁護委員)他 研修題材として「2011プラン(ダイジェスト版)」を提供 用務員・調理員研修150人(23.7.26開催 講師：人権教育課長)他 市民アンケート実施・ポケットティッシュ配布							報告 問題点・反省点・これからの課題 各事業における「男女共同参画の視点」について、今まで以上に事業担当課とのヒアリングに時間をかけ、男女共同参画についての理解、意識の浸透に努めていきたい。															
備考	庁内掲示 ・「かわるにかぁらん男女共同参画講座」(講座案内 感想等報告) 23.7.28 「イクメンより育男がモテる時代」～男性の育児参加～中平公哉 氏(主夫) 23.9.6 「離婚問題を通じて男女同権を考える」～家庭における男女館の問題を法律を通じて考える～西森やよい 氏(高知市教育委員・弁護士) 23.10.5 「身近に溢れる情報を男女共同参画の視点から読み解く」(メディア・リテラシー)新納朋代 氏(テレビ高知編成業務部副部長) ・男女共同参画階層別研修(研修実施報告) 23.10.18 「職場の男女の機会均等とワーク・ライフ・バランス」藤田恭子 氏(高知労働局雇用均等室長) ・部局推進委員会成果品掲示(23.12月～24.3月) 「高知県の若年層における性に関する問題」 「知っていますか? DV気付けてください」 「地域活動に男女共同参画の視点をプラス」 「地域における子育て支援の現場では」 「イクメンが利用しやすい庁舎を大検証」 「男女共同参画ってなに?」							備考 <委員意見・提言> ・市職員の中でも意識に格差がある状況の中、結果がすぐ目に見えてこない「視点の浸透」という部分に対し、意欲的な取り組みをされている担当課の方には敬服いたします。命の尊厳と同等の男女共同参画の視点は、確実に浸透しつつあります。皆で意識を共有し、具体策を挙げ、ひとつひとつを大切にに取り組んでいきましょう。 ・意見回答欄には、抽象的な表現ではなく、具体的な対応等を挙げていただきたいものです。見通しが立たないことも多分にあることと思います。それも、その案件に関してはこのような状況で見通しが立たないなど、具体的に表現していただきたい。年度途中の実績や報告では、担当課の方も難儀されていることと思いますが、簡潔で尚かつ内容が分かる記述をお願いしたいものです。															
									総合評価 必要度(市民) 大 円の大きさ … 評価(委員会)  <table border="1" data-bbox="2196 1848 2552 1995"> <thead> <tr> <th>必要度 (市民)</th> <th>達成度 (担当課)</th> <th>評価 (委員会)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2.5</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table>									必要度 (市民)	達成度 (担当課)	評価 (委員会)	2.5	1	2
必要度 (市民)	達成度 (担当課)	評価 (委員会)																					
2.5	1	2																					